

新生会看護部通信

2010.7.1発行 第27号

「看護実践に役立つ技 — 移乗のコツ —」

～新生会第一病院 リハビリテーション室～

【理学療法士 久野義直】

今回は看護実践で役立つ技という事ですが、まずは基本を再度おさらいしましょう。まず、**移乗を行う前に移動する環境を整えておく事が大切です。**以下移乗の際に注意するポイントをあげてあります。

- ◆ 患者様と介助する側のスペースが確保されているか
- ◆ バルーンや点滴などのルートが移乗の妨げにならないか
- ◆ 車椅子やベッドのロックがかかっているか
- ◆ レッグレストやアームレストを外しているか

e t c

環境が整ったら、移乗動作ですが、案外疎かにしているのが声かけではないでしょうか。**患者様は今からどう動かかが分からないと不安で体も硬くなり移乗の妨げとなる事があります。**しっかりこちらの意思を伝えた上で行う事が良いでしょう。

また、全介助にて移動を行う際に完全に足が接地しないケースは別として、足が接地するケースでは移乗の際に履物を履かせずにそのまま裸足で移乗を行うと、**患者様の脚が前方へ滑りやすく、重心が後方へ流れて介助者の腰への負担が大きくなる要因**でもあります。

それに加え、フットケアの観点から言っても履物を履かせた方が良いのではないかと思います。

高齢の患者様が多くなり、透析室でも車椅子を利用する機会が多いのではないのでしょうか。今回は新生会第一病院、リハビリテーション室での**移乗のコツ**を紹介していただきました(金山クリニック 中井)



移乗でのコツは重心移動と平衡に尽きる！

ほとんどの患者様は重心移動さえ手伝えれば移乗が可能です。しかし、**重心は目に見えない**為介助する側は**イメージを持つ事が必要**です。



写真①



写真②



写真③

- 移乗する際の立ち上がりでは重心の前上方への重心移動を行います、

ここでは**介助者が引き上げるイメージではなく自身の重心を下げるイメージ**で行います。(写真①②)

- 患者様の殿部が挙上すると同時に平衡を保ち、**右から左あるいはその逆に重心の平行移動**を行います。(写真②③)

決して体幹を捻って行ってはいけません。

この時のポイントとしては腹圧を高めた状態で行うと動作の安定が図られるだけでなく、腰への負担の軽減になり腰痛の予防にもなります。

特に女性の多くは腹筋や背筋が弱いので少し意識して行うだけで動作が楽になると思います。

2010年度新学生会看護部のキーワードの一つである“つながり”には様々なものがあり大切にしていかななくてはならないものだと思います。看護部通信では、つながりシリーズとして各部署における“つながり”を紹介していきたいと思っています。今回は第一回目として金山クリニックにおける“患者とのつながり”です。長くにわたり築いてきた患者とのつながりには強い絆が感じられます。(金山クリニック 田中)

金山の患者会「ときわ会」の名前は、サテライト開設当初の場所である「常盤ビル」から名づけられました。そんな由来を知っているスタッフは数名になってしまいましたが、毎年開催される「総会」や「腎移植キャンペーン」にスタッフが参加して支援し29年になりました。

総会では講演を依頼されることもあり、医師や栄養士など他職種が参加してきました。看護部に依頼された時は、水分管理・食事・フットケア・シャント管理などをテーマに、クイズ形式やAEDの使い方の実践など、患者参加型の学習会を行ない自己管理の支援の場としてきました。

患者さんもスタッフもHD室では見せない顔を出し合い、人間関係が深まるいい機会になっています。また、患者会を通した話し合いの場があることは患者満足にも繋がっていくと思っています。最近では身体的や種々の問題により、患者会の幹事を引受ける方が少ない事情もありますが、HDフロアーを移動して引受けてくれる患者さんもいて、頼もしくもあり、この患者会を大切にしていきたいと思っています。

今年からは、永きに渡り自己管理を継続している患者さんの頑張りとおを讃え、透析歴30年の患者さんの表彰をしていくことになりました。8名の方が表彰を受け、笑顔を見せて頂きました。

これからも、患者会を支援しながら、支え合う「つながり」を大切に看護に活かしていきたいと思っています。



各部署の重点目標

今年も各部署の副主任以上の参加で管理者研修会が開催されました。そのなかで、昨年度の各部署の目標達成に向けての具体的な取り組みと達成状況、各部署の特徴を活かした本年度の重点目標とが発表されました。他施設の活発な発表を聞きとても良い刺激を受けました。【金山クリニック 藤澤】

外来

- ★外来：個別指導の充実（CKDの受持ち制の見直し・DM、フットケアは受診体制を整える）
- ★外来・採血・点滴、薬剤準備時の手袋装着。Ope室：ゴーグル装着。部署内でのラウンドを行い、リキャップ防止等のチェックを行う。

血液浄化センター

- ★①透析前後の体重測定の約束事項を改善実施・指導
- ②透析中の薬剤投与に関する事故防止への取り組み
- ★ラダーレベルの評価を実施し、入職2年以上のレベルアップにつなげていく中間面接を全員実施支援
- ★チーム編成を行い、仕事・技術・知識・メンタルヘルスなど協力しあえる体制

在宅透析教育センター

- ★HHD患者・家族へ向け た情報誌（研究発表、インタビュー、紹介など）を刊行する
- ★止血ベルトの確認、災害マニュアルに添った指導の再確認。（介助者と共にモデル練習を 実施）

2F病棟

- ★『介護支援指導カンファレンス』を活用し、在宅看護・介護の充実を図る
- ★院外研修参加し、伝達講習を行う。ICTラウンドを実施し、評価を報告し、スタッフの意識付けを図る

金山クリニック

- ★①Drと患者カンファレンスの開催②高齢者プロジェクトの充実と高齢者の実態調査
- ③高齢者アセスメントシートの作成④多職種（CE・栄養士・薬局など）からの学習会を開催
- ★①各マニュアルを見直し、活用できるように整備する②マニュアルの学習会開催
- ③看護記録プロジェクトを立ち上げ④透析ポケットナビを読破
- ★①スタッフ交流会の継続②透析看護ナラティブを語り合う
- ③病院行事を通してチームワーク作り をする

3F病棟

- ★療養病棟の活用、退院支援プログラム作成、「介護支援指導カンファレンスの実施
- ★安全確保のマニュアルの見直し、身体拘束を最小限にするためのアセスメント（スコア）シートの検討を行う

東海・東海知多クリニック

- ★①家族面談の実施（面談に来れない家族には状況を文書で報告）②送迎業者と学習会・懇談会を図り、患者が安心して通院できるよう連携する③家族面談で得た情報を基に、医療スタッフ間でのケースカンファレンスを充実
- ★ ①各種（業務・操作）マニュアル見直しと修正②新規、修正したマニュアルを説明し周知徹底
- ★①入職3年以内の看護師を対象に座談会（成功・つまずき体験）を開催②座談会で得た内容から新人教育内容、体制を再構築する

鳴海クリニック

- ★eラーニングを使用した学習会
- ★部署内交流会を開始
- ★事故報告書の他職種との連携・対策の見える化

十全クリニック

- ★感染防止チェックリストを作成する。清潔・不潔エリアを整備し、ラウンドを3ヶ月毎に（6・9・12・3月）に実施する
- ★新人教育マニュアルを改訂（チェックリストの作成・使用テキスト）を行う
- ★新人教育マニュアルの中にeラーニングを取り入れ指導に活躍する

あしたの丘

- ★入院時の看護サマリーの見直しと運用
- ★病歴（入所後の入退院、受診）の整理をして、看護記録を見やすくする。
- ★ 介護スタッフ向けにバイタルサインの正常・異常・異常時の初期対応について教育を行う。
- ★ ①褥創対策：創傷処置をわかりやすく一覧表にして介護スタッフと共有する





看護安全シリーズVI



ディートファス

★透析室における安全性の向上と作業の効率化：D-FAS★

【東海クリニック 3F 宮田 江利

東海クリニック3階フロアに「D-FAS」という新しいコンソールが入り、早5ヶ月がたちました。導入当初は慣れない機械に戸惑いましたが、業務の中で実感している「D-FAS」のすばらしい機能を今回紹介させていただきます。

D-FASには自動プライミング機能、自動脱血機能、自動返血機能、緊急補液機能が備わっています。プライミングから返血までの作業性が最適化され、ヒューマンエラーの低減、感染防止に貢献している。

1 自動プライミング機能

直前プライミングが可能となり、HFK汚染のリスクが減少及び急な入院などによるHFKの調整も容易になります。さらにHFKを反転させるなどの作業は不要です。回路の逆接続などもこの段階で発見されます。



プライミングの画面

2 自動脱血機能

穿刺後、動脈・静脈同時に回路接続し「開始」ボタンを押すだけで、血液回路内の状態を見て自動的に透析に移行されます。HFKを反転させるという作業は不要です。また、間接者が機械に触れる回数が少ない為、機械への血液汚染リスクを減少させてくれます。



同時接続の場面



脱血の画面

3 自動返血機能

透析終了後、「終了」ボタンを押すだけで返血がスタートします。自動的に動脈・静脈への返血が交互に行われ、一定の返血量になると返血終了となります。血液回路のクランプも機械により調整されるため、ヒューマンエラーによる血液逆流や空気混入が防止できます。



返血の画面

4 緊急補液機能

透析中の血圧低下などが起こった場合でも、「緊急補液」ボタンを押すだけで一定量の生食が補液されるため迅速かつ無駄のない作業効率を得られます。



透析停止にしないと緊急補液画面は作動しません。又、この画面では0mlになっていますがボタンを押す事で補液量が加算されます。1回の補液量は50mlです。



緊急補液の画面



「心動かされた本」の紹介 ~PART7~



【鳴海クリニック 主任 早川知子】

主任が選んだ今回の1冊！！

ストレスが溜まってくると、やる気がなくなりネガティブ思考になりがちではないでしょうか。マイナス思考をしがちな自分を変えていくことができればいいなと思い購入したと思います。50の内容について書かれており、その中の一つ、ネガティブな姿勢を取り除くの項で

『自分を磨く方法』

●著者：アレクサンダー・ロックハート

弓場隆 訳

●出版社：ディスカヴァー・トゥエンティワン

「心を庭にとどめるならば、心の姿勢は種だ。種の種類によって、異なる実が成る。ネガティブな種を植えれば、ネガティブな結果を得ることになる。」



というのがあります。ネガティブ思考であると、何事もネガティブになってしまうので、ポジティブな種を植えていけるように心がけていきたいと思えます。